

【科研費応募支援ニュースレターNo.11】 発信日 231012 (木)
タイトル_RA 協議会に参加したこと

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。
今回は、2023年8月8日(火)~9日(水)に東京会場とハイブリッドで開催（参加者数：679名、所属機関数：190機関）されましたRA協議会第9回年次大会に参加したことを書かせていただきます。年次大会の形式は一般の学会の年次大会とあまりかわりません。

RA（リサーチ・アドミニストレーション）協議会は、大学を含む研究機関において研究支援業務に従事する人のための団体です（URAとなっていないのは、大学のみならず、研究機関も含まれるためです）。RA業務の向上を目指すことによって、我が国の大学等の研究力強化に貢献し、学術及び科学技術の振興並びにイノベーションに寄与することを目的とし、2015年3月11日に設立されました。

URAの業務内容は、研究を行うために必要な研究資金の獲得に向けた支援業務「プレアワード業務」、研究費を獲得したあとに関わる研究支援業務「ポストアワード業務」です。アワードは研究費に採択されることを意味します。また、国内外の科学技術政策や学内研究資源の調査分析などの「研究戦略推進支援業務」もURAの主要な役割です。以上3つの業務を中核業務と称しています。これ以外にも、産学連携・国際連携・研究広報など、研究を多面的に支援する「関連専門業務」もあります。本学では、産業研究所事務室が主にかかわっています。URAという職名は私のみですが、産学連携に関わる方、研究倫理・研究コンプライアンスに関わる方、研究広報活動に関わる方、研究費の適正使用に関わる方、安全保障輸出管理に関わる方（庶務課）などがおられます。

私は2022年4月に本学に着任し、初めてURAという仕事を経験しました。それまで、研究者として、科研費申請や採択後の事務手続きや研究および成果発表、審査委員としての経験はありましたが、URAの経験は無く、1年目は産研事務室の方々の助けと前任者の残して下さった資料等をもとになんとか業務を行ってまいりました。2年目に入り、URAとして、本学の研究支援をしていくために、もっとどうすれば良いのかという思いも湧いて、申請書作成支援以外に、今年度は新たな試みとして、科研費採択経験のある学内講師による科研費獲得セミナーの開催や、お役にたっているかどうか分からないですが、科研費応募支援ニュースレター送信などを始めました。しかし、私の行っていることは、上記の分類からみるといずれも「プレアワード業務」のみです。「ポストアワード業務」など、もっとその他の業務にも携わりたいとの思いから、今回、RA協議会第9回年次大会に参加させていただきました。先生方にも関連ある発表の一部を、以下に記載させていただきます。

（1）信田氏（京大）口頭発表『俯瞰的視点から構成した研究ストーリーで申請書を作成！』

審査委員は申請者よりも俯瞰的な視点から申請書をみているので、それにこたえる申請書を作成せねばなりません。「自己の研究領域における背景と問題」、「自己の研究計画」、「自己の研究成果」に加えて、その外側の「学術・社会における背景と問題」と「学術・社会への波及効果」も記載する必要があります。そのため、審査委員の視点である評点要素（研究課題の学術的重要性・研究方法の妥当性・研究遂行能力及び研究環境の適切性）に関わる内容を申請書のストーリーに盛り込み、ロジカルな一連の流れとしてつなぎ、研究ストーリーを作成することが重要であるという内容でした。

（２）吉木氏（東京都立大学）口頭発表『EurekAlert！を通じた研究広報は論文の引用に貢献するか？』

「EurekAlert！」とは、アメリカ科学振興協会（AAAS）が提供している世界最大の科学プレスリリースのプラットフォーム（商品やサービスの提供者と利用者をつなぐ基盤）です。論文を発表したときに、ここに掲載しておくことで被引用率が上がる、各種媒体に取り上げられやすくなるなどの効果があるとの発表でした。大学としての登録が必要ですので、ここに掲載しようとお考えの先生は、産研事務室まで、ご連絡をお願い申し上げます。

（３）中渡瀬氏（国立情報研究所）ポスター発表『研究における文章生成 AI による文書作成支援』

文章生成 AI による文書作成支援として、研究計画書の改訂や模擬審査が行われました。その結果、有料の chatGPT のモデルでは不採択課題はすべて不採択と分類することが可能だそうですので、事前に採否を見積るのには有用ではないかとのことです。採択可能となるまで、ブラッシュアップの各種検討ができそうです。実際に使用するには、chatGPT に訊ねた質問を再利用されないような設定が必要と思います。また、生成 AI の利用に関しましては、学内の規定や、科研申請への利用では日本学術振興会の重要説明事項（以前に配布致しました紫の表紙の『科研費 公募要領 1 頁』）をご確認下さい。

（４）大西氏他（京大）ポスター発表『研究概念図のブラッシュアップを通じた研究資金獲得支援の試み』

京大ではここ 3 年間、研究概念図の作成支援にフォーカスした研究資金獲得支援の活動を実施されています。科研費申請において、研究概要を視覚的にわかりやすく示すことができれば、審査委員が申請内容を理解しやすくなると考えられます。私は URA として、申請書を見させていただいて、文章などの改訂をご提案していますが、なかなか図の改訂の提案までできていない状態です。本学でも、外部講師によるセミナーを行っていますので、今後は、研究概念図の作成支援に関わる外部講師の依頼も考えていきたいと思っています。

(5) Predatory Journal (ハゲタカジャーナル) に関するポスター発表 (大阪大学 井出氏) がありました。「Predatory Journal」に関しましては、近いうちに別の号のニュースレターでお伝えしたいと思います。

本学 web サイト【研究・社会連携»科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html

【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただきたいと思っております。気軽にお付き合いいただき、なにかすこしでも先生方のお役に立てればと願っております。今後は2週間に1回の配信を目標に頑張りたいと思っております。

ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで URA 高木敦子まで、お伝えいただきますよう、お願い致します。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

失礼致します。

参考資料 : RA 協議会について__<https://www.rman.jp/aboutus/>